

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 豊橋市立老津小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>

☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒441 - 3301

豊橋市老津町字宮脇15の4

E-mail oitsu-e@toyohashi.ed.jp

Website

幼児児童生徒数 男子94名 女子96名 合計190名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「未来に目を向け、問題解決力を高める児童の育成」を研究主題とし、ESDを「よいことを未来につないでいく活動」と捉え、生活科・総合的な学習を軸としたESDの実践を通して、子どもたちの問題解決力の育成を目標とした。

具体的には、地域を愛する心、生きる力、安全・安心な環境づくりを柱に、①健康に係わる活動、②食に係わる教育、③地域に係わる学習、④平和に係わる学習を行った。

### ① 健康に係わる活動

特別支援学級では、もりもり食べて大きくなるためには、丈夫な歯が大切ということで、養護教諭と協力しながら、歯の健康について学んだ。歯の染め出し薬を使い、磨き残しがないかチェックしたり、仕上げ磨きの方法を学んだりした。また、健康な身体を作るために、よく噛むことが大事と知り、一口目は30回噛もうという「噛み噛みチャレンジ」を現在も続けている。

## ② 食に係わる教育

2年生は、生活科で「やさい、だーいすき」の実践を行った。生活科の単元「花や野菜を育てよう」に当たる単元であるが、子どもたちの野菜嫌いという課題を克服し、野菜を食べることが好きになる授業内容を3つ加えた。

①地域の野菜博士に元気でおいしい野菜作りの方法を学ぶ②栄養教諭に野菜パワーについて教えていただく③子どもが大好きなカレーに入れることでどの子も食べる体験ができる、という内容である。実際に作ったカレーは、どの子も完食で、「家でも作って食べたい」と大好評だった。

## ③ 地域に係わる学習

4年生は、社会科の「郷土の発展につくす」という単元をE S Dの視点で捉え、「先人の苦労と努力を未来につなげる」総合的な学習に取り組んだ。かつては漁業が盛んだった地域が、どうして現在のような農業が盛んな地域へと変化してきたのか、昔の地図や郷土史から疑問に思ったことを調べ、さらには地域の古老から聞き取り調査をして追究していった。そして、自分たちが調べてわかったことを新聞やプレゼンテーションにまとめ授業参観で発信した。学びを発信してよかったという自己肯定感の高まりを感じた。

## ④ 平和に係わる学習

6年生は、社会の太平洋戦争の学習から豊橋が受けた空襲の被害について学んだ。さらに、地域の近くでも渥美線電車機銃掃射事件という戦争被害があったことを知り、どのような被害だったのかを証言集をもとに調べ学習を進めていった。被害者の遺族や事件のあった電車に乗り合わせ助かった方などから話を聞いたり、事件のあった現地へ出かけて話を聞いたりした。これらの学習を通して、戦争のない平和な世界をつなげていくにはどうしたよいか考えた。



① ていねいに歯磨きしよう



② 夏野菜カレーおいしいね



③ 老津の歴史がよくわかったよ



④ 証言者のお話を聞きました

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・ 書籍「楽しい野菜づくり育てて食べよう」  
「やさいを育てて食べよう」
- ・ 「証言 渥美線機銃掃射」「証言 渥美線機銃掃射」(続)
- ・ 郷土誌老津

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

これまでの教育課程をもとに、ＥＳＤに係わる教科・領域から単元や題材を選び線で結んだものに、生活科・総合的な学習の大まかな単元計画を加えたＥＳＤカレンダーを作成している。単元のねらいや流れがわかるため、これまでの総合的な学習・生活科の指導計画を「未来につなげていくものは何か」という視点で検討することができ、各単元の見直しが進んだ。さらに、簡略化された指導計画を盛り込むことで、指導者が、見直しをもって実践することが可能になった。

単元構想には７つの能力・態度からどの能力・態度を育てるのか明記しそのために必要な具体的な手立てを考え実践に取り入れるようにした。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

各学年が、生活科・総合的な学習のどの単元でＥＳＤの学習を行うのか、何を未来へつないでいくのかを表にまとめ実践を行った。全学年で研究授業を行い、どのような実践を行っているのか共通理解することで、組織的かつ継続的に活動に取り組んでいけると考えている。また、授業後には各自が、授業について学んだことや理解の深まり等をレポートにまとめ保存しておくことで、各自の学びが記録として残り、次年度以降もＥＳＤの実践を継続していけると考えている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

授業参観レポートをもとに、前期と後期に複数の研究授業についての意見交換を行う「ＥＳＤ協議会」を行うことで、よりよい実践に向けての活動の評価ができた。前期の「ＥＳＤ協議会」から、地域ボランティアの方から、より具体的で豊富な情報を得ることができ、専門的なことを教えていただくことで、子どもの学びが深まり、関心・追及意欲を高めることができるという成果が明らかになり、後期の実践に生かすことができた。また、後期の「ＥＳＤ協議会」からは、「批判的思考力」の育成に課題が残ることがわかったので、次年度の重点目標としてさらに活動の工夫が必要である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

９月と２月の授業参観で家族や地域の方に、自分たちが学習してきたことが伝わったことや伝えていきたいことを、壁新聞やプレゼンテーションソフトにまとめ発表した。アンケートを取り、それを集計することで保護者や地域の方がどんな感想や考えをもったのか知ることができた。また、朝会の時間に、他学年の児童に伝えたいことを発表した。子どもたちが、地域のことを真剣に調べ考えたことが、家族や地域の方に伝わり、感謝されたり改めて地域の問題について意識していただけた。たりした。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（２００字程度） ※チェック事項 2-3 に対応

学校以外との交流やネットワーク形成については現在のところ行われていないが、活動を継続していく上でさらなる効果的な活動を取り入れていくためには、他団体からの情報や出前授業などでの教え（教育）が必要になると思う。今後どのような形で関わっていけるか探っていきたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度） ※チェック事項 2-4 に対応

様々な地域の学校の取り組みを知り、また、自校の取り組みを発信していくことでお互いに得るものがあり、よい影響力を及ぼすことができると考えられる。ホームページにESD活動を載せていくことで、多くの学校に取り組みの内容や成果・課題を知らせることができると思う。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

地域の歴史を学習したことで、子どもたちの地域への愛着が増したと同時に、地域のお年寄りから、子どもたちの活動を喜んでいただいたという声が届き、地域とのつながりが深まったという感じがした。

近隣の中学校や保育園、市民館等に学習したことをまとめた壁新聞を掲示していただき、どんな活動をしているのか、どんな課題があるのかを知っていただくことができた。中学生からは、新聞を読んだ感想文をもらい、子どもたちの満足感や充実感を高めることができた。

- （3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

29年度に実践してきたESDの取り組みを引き続き30年度も継続して行っていく。協力していただいた地域ボランティアや地域の団体にも続けて協力をお願いしていきたい。

29年度の活動で課題として上がった「批判的思考力」の育成のために、対立場面を生む単元構想の見直しをしていきたいと考えている。また、子ども達の意見交流を活発にするために、スキルアップの方法を考え実践していきたい。